

科目名	フィールドスタディC	教員名	中澤高志
実習先	大分県別府市・佐伯市		
実習期間	2022年8月1日（月）～8月4日（木）		
テーマ	地方都市の現場		

目的(実習のねらい):

別府市でのテーマ：「地方都市のグローバル化」

温泉観光地として知られた別府市は、多くの留学生を擁する大学の存在と、インバウンド観光の活発化によって、地方都市でありながらグローバル化を肌で感じることができるフィールドである。そこに身を置くことで、多文化共生社会とは何かについて考えてみたい。

佐伯市でのテーマ：「自らなりわいを創る」

「田舎暮らしは魅力的だが、仕事はどうする？」と考えるとき、どうしても「雇われて働く」という選択肢にとらわれがちである。しかし、佐伯市のような地方小都市でも、雇われるのではなく、自らなりわいを創り出すことで、日々自分らしく暮らしている人々が現れ始めている。そういう人たちのバイタリティ溢れる生きざまに接することで、オルタナティブな生活の可能性について考えてみたい。

実習報告:

8月1日（月）

まずは別府市文化国際課の大塚さんに、別府市の多文化共生の現状について説明してもらおう。午後は暑い中、多文化共生の象徴的な場所である別府マスジド（モスク）を訪れ、まずは礼拝を体験。そのあと、立命館アジア太平洋大学のカーン教授のお話を伺う。いま、別府では土葬用墓地の建設をめぐってムスリムの方々と地域社会との意見の違いが表面化している。

夕方、鉄輪に移動し、鉄輪のまちあるきをした後、温泉につかり、地獄蒸し料理を賞味。



マスジドには礼拝の時間が示されている。

8月2日（火）

鉄輪から貸し切りバスで佐伯に移動し、後藤さんと河野さんが手掛ける船頭町のリノベーションについて説明を受ける。昼食をはさんで、後藤さん、河野さんの案内で、船頭町のリノベーションの現場を見る。これからリノベーションが予定されている旧白井歯科で、高校生との交流会。中澤ゼミ卒業生で、佐伯市出身の矢野君佳さんも合流。さらにそのあと、船頭町の友人たちが交流会を開いてくれた。

詳細な記録は以下を参照

<https://note.com/konen/n/nb8ec11bb62c8>



鉄輪の湯治宿ひろみやさんで。

8月3日（水）

終日グループに分かれて調査。各グループの学生は、なりわいを創っている3人に、自分たちでアポイントを取り、佐伯市内をぐるぐると調査して回る。

夜は佐伯のシンボルである城山のナイトハイクに参加し、ムササビを見る。

詳細な記録は以下を参照

<https://note.com/konen/n/n6d5f7ad67e61>

8月4日（木）

葛港から10分ほどの船旅で大入島へ。新栄丸の宮本さんの小舟に乗り換え、最新鋭の技術を導入したカキの養殖を見学する。昼食には取れたてのカキを焼いてくださる。

詳細な記録は以下を参照

<https://www.shinei-maru.com/blog/5155/>

最後は佐伯市城下町観光交流館でまとめの会。参加した学生の言葉を聞くこの時が、フィールドスタディをやってよかったと実感する時である。

成果：

事前学習から実習、そしてレポート作成までの、すべての過程において、学生は多くのことを学んだ。地方都市の多くは、人口減少に直面し、地域経済にも明るい話題は少ない。それでも、自らなりわいを創って生きている人たちは、とても輝いている。学生の多くは東京でビジネスマンになる道を歩むのだろうが、そうではない生き方もあることを学んでくれたようだ。それもこれも、毎年フィールドスタディを支えてくれる人たちのおかげです。これからもよろしくお願いいたします。

専任教授 中澤高志